

高圧酸素治療室

Hyperbaric Oxygen Therapy Unit



各科と連携し 安全で有効な高圧酸素治療を実施

各疾患の担当科と連携しながら適応を判断し、安全で有効な高圧酸素治療を行っている。具体的には、減圧症、一酸化炭素中毒、ガス壊疽などの緊急治療を要する疾患に対して、救急部、集中治療部、各疾患の担当科と連携し、高圧酸素治療を行っている。また、近隣府県に高圧酸素治療を提供できる施設がほとんどないため、他病院からの紹介患者に関しても積極的に治療を提供している。

代表的診療対象疾患

減圧症・突発性難聴・骨髄炎・放射線潰瘍・一酸化炭素中毒

業務内容の特徴と実績

末梢血管障害の治療のために設立

第二外科の久山医師が中心となって、末梢血管障害あるいは末梢神経障害の患者さんの治療のため、1967年京大病院に高圧酸素治療室が設立された。附属病院中央診療施設の一部門として米国製の大型高圧酸素治療装置が設置され、診療を開始。その後、英国製の1人用プラスチック製高圧酸素治療装置と国産の鋼鉄製高圧酸素治療装置が導入され、これらの3機種で高圧酸素治療が行われた。

治療の対象は、急性一酸化炭素中毒およびその他ガス中毒、ガス壊疽、空気塞栓および減圧症、急性末梢血管障害、重症熱傷、重症凍傷、広範囲挫傷、ショック、心筋梗塞、脳塞栓、重症頭部外傷、脳浮腫、低酸素性脳機能障害、腸閉塞、重症急性脊髄障害、網膜動脈閉塞症、突発性難聴などの救急的疾患と難治性潰瘍を伴う末梢循環障害、皮膚移植、スモン、脳血管障害などの後遺症としての運動麻痺、一酸化炭素中毒後遺症、脊髄神経疾患、骨髄炎および放射線壊死などの非救急的疾患がある。減圧症はもとより、ガス中毒やガス壊疽、重症熱傷に効果を示した。

また、進行性筋ジストロフィー症、スモン、末梢血流障害などの症例の症状軽減に有効であった。さらに、胃がんや乳がんに対する根治手術を高圧酸素治療装置内で行い、あわせて抗がん剤の局所への動脈注射を行う治療が試みられた。

現在の業務体制

1991年度からの中央診療棟の新築移転に伴い、高圧酸素治療室も新中央診療棟の地下に移転。それまでのものより1.5倍の広さがあり、コンピュータによる自動制御装置のついた国産の高気圧酸素治療装置を中心に治療を行っている。

設立の経緯と、患者さんの呼吸循環動態管理に外科医が習熟していたこと、イレウスなどの外科疾患も高圧酸素治療の対象になったことなどもあり、当院では第二外科が治療を担当してきた。1998年度の外科の再編成(第一外科、第二外科、移植外科の統合)に伴い、外科が担当することとなった。

高度先進医療の取り組み

重症に対しても可能な限り治療を実施

京都府で大型治療装置が稼働しているのは、自衛隊舞鶴病院と当施設だけである。京都府内での減圧症や一酸化炭素中毒症などへの救急医療が可能な施設としての役割を果たしている。意識状態、呼吸状態が不安定な重症患者においては大型治療装置内でのレスピレーター使用の安全性は保証されていないので、大型治療装置内での医師付き添いのもとで治療を行うべきである。このような重症の一酸化炭素中毒症、嫌気性菌感染症に対しても可能な限り対応、治療を行っている。

